

提案依頼書

2026 年 7 月

[CONFIDENTIAL]

1) プロジェクト概要.....	4
1-1.目的・背景	4
1-2.目標・ゴール.....	4
1-3.ターゲット	4
1-4.納期と納品物.....	5
2) 提案依頼事項.....	6
2-1.CMS について	6
2-2. 機能要件（加点要件）	6
2-3.サイト構造について	7
2-4.UI/UX 方針.....	7
2-5.デザイン案	7
2-6.アクセシビリティ要件	8
2-7.インフラ設計方針.....	8
2-7-1.概要	8
2-7-2.インフラ構成図	9
2-7-3.コンポーネント詳細.....	9
・ Amazon EC2.....	9
・ ネットワーク (VPC).....	9
・ Amazon RDS（必要時）	10
・ Amazon S3	10
2-7-4.セキュリティ設計	10
・ CrowdStrike Falcon カバー範囲と補完	10
2-7-5.ログ管理・CSF 連携.....	11
・ ログ連携構成.....	11
・ 推奨ログ保持期間	11
2-7-6.バックアップ設計（Veeam）	11

・バックアップ対象と方式.....	11
Veeam Backup for AWS 構成.....	11
3) 次フェーズ以降の要件に関して	12
3-1.本項について.....	12
3-2.論文・資料のデータベース化.....	12
3-3.WEB サイト・CMS に関する事項.....	12
4) プロジェクトに関して.....	13
4-1.体制図・メンバー実績	13
4-2.進捗管理手法.....	13
4-3.リスク管理手法	13
4-4.変更管理手法.....	14
4-5.概算スケジュール.....	14
4-6.サイト保守体制について	14
5) 提案に関する事項.....	14
5-1.ご留意事項	14
5-2.提案に関するお問い合わせ先.....	14

1) プロジェクト概要

1-1. 目的・背景

放射線影響研究所（以下、RERF という。）では、主に研究協力者や共同研究者に対して研究内容や研究活動を公開するためにホームページを運用している。研究活動から得られたアウトカムや RERF の諸調査活動については、研究協力者のみならず原爆被爆者や関連するコミュニティ、さらには行政機関関係者など多様なステークホルダーに向けた情報発信が求められている。このホームページは 2017 年に開設され、約 10 年の年月を経て多くのコンテンツが追加されてきた。現在の本サイト総ページ数は約三千ページであるが、これらのコンテンツはサイト開設時に構成されたサイト構造に準じた形で拡張されてきたため、サイト深度の適切性や、コンテンツ毎の横断的連携が十分でないことから、目的とするコンテンツへのアクセシビリティとナビゲーション性に大きな問題を抱えている。また、情報の鮮度という観点からは、サイトを運用する CMS（Contents Management System）の機能が十分でないことから、所内各部門で発生源的に直接更新することが困難であり、迅速な情報提供という観点からも課題を抱えている。

このような課題を解決するために、本調達においては「コンテンツへの可到達性」と「コンテンツの鮮度」を改善することを目的とした RERF WEB サイトの完全リニューアルを計画するものである。

1-2. 目標・ゴール

前述した「コンテンツへの可到達性」を改善するために、サイト構造の全面的な見直しを行う。また、アクセシビリティの向上のためにサイトを構成するページデザインの抜本的な刷新を行う。さらに、ファセットナビゲーションを用いた動的なコンテンツ探索機能や、SEO 対応、スクリーンリーダーなどの新しい機能を実装することによって幅広いユーザ層に対応することができるモダンウェブサイトの構築を目指す。

一方、「コンテンツの鮮度」を改善するためには、CMS に対する機能充足が求められる。具体的には、RERF のエンドユーザが容易にコンテンツを更新することができる操作性と、いつ誰がどのコンテンツを更新したかを確実に把握することができる本人身元保証性の確保である。この身元保証性の確保により、適切な承認ワークフローが実現できると考えられる。

1-3. ターゲット

ターゲット	概要	優先度
研究協力者	コホート参加者に対する研究内容と結果のわかりやすい解説が必要	1
共同研究者	データ共有や文献検索等の実践的機能が必要	1

大学等の研究機関	RERF の研究活動への理解が必要	1
行政機関関係者	研究活動や財務内容の公開	2
原爆被爆者および被爆二世	RERF の諸活動全般に対するわかりやすい解説が必要	2
関連コミュニティ	RERF の諸活動全般に対するわかりやすい解説が必要	3
一般市民	RERF に対するブランドイメージの定着	3
関連する国際機関	バイリンガルコンテンツの充実が必要（日英）	2

1-4. 納期と納品物

①納期 令和 9 年 7 月 30 日（金）

②納品物

- ・ RERF-WEB サイト一式
- ・ 要件定義書
- ・ サイト設計書
- ・ CMS 設計書
- ・ CMS ライセンス
- ・ ページテンプレート
- ・ テンプレート仕様書
- ・ 導入報告書
- ・ 利用者向け CMS 操作マニュアル
- ・ 管理者向け CMS 操作マニュアル
- ・ AWS インフラ設計書
- ・ 障害対応マニュアル
- ・ 進行管理表
- ・ 課題管理表
- ・ 打合せ議事録

③納品物の提出条件

- ・ Web サイト一式は今回調達する環境で正しく動作するようにデプロイメントすること
- ・ 納品物は一覧表とともに CD-R もしくは DVD-R 等の記録媒体で提出すること
- ・ 納品物は上記メディアとは別に 1 部を印刷の上、提出すること
- ・ ドキュメント関係の納品物のフォーマットは原則として MS-Office 形式とする
- ・ 納期に Web サイトとして一般公開できる状態にあることを必須とします

④著作権

納入されたすべての成果物の著作権は原則として RERF に帰属するものとする
著作権の譲渡が難しいものは生成前にあらかじめ告知してください

2) 提案依頼事項

以下の各項について提案をお願いします。提案時には以下に沿った項目立てにて提案ください。本提案依頼書に記載された要件はすべて必須要件であり、提案された案件の性能等がこれを満たしていないと判定された場合には不合格となり、審査の対象から除外されます。ただし、2-3. 機能要件（加点要件）についてはこの限りでなく、本要件を満たしているものは項目毎に加点として評価するものとします。

なお、企画提案書に記載されている詳細や、実現可能性を評価するために別途リニューアルデモサイトを用いたプレゼンテーションを実施しますので、併せてデモサイトの構築をお願いいたします。

2-1. CMS について

以下要件を満たすものをご提案ください。

- 現行 CMS 基本機能要件（別添）を満たすシステムとしてください
- 現サイトにて CMS にて管理しているコンテンツは必要に応じてデータ移行し、リニューアル後も管理できること
- 1 項に記載された現状の課題が解決される設計となっていること
- 管理画面へのアクセスはネクストセット (<https://www.nextset.co.jp/sso.html>) 経由での SAML 認証または OpenID Connect による SSO ができること。また工数が大きく変わらないようであれば Entra ID も可とする
- 独自仕様、ブラックボックス、契約の縛り等でベンダーロックインにならないこと
- CMS のソフトウェアについては自由に選定いただいて問題ありませんが、利用料が発生する場合にはインシヤルは本調達に含まれます。ランニング費用については、保守費用としてご提示ください
- コンテンツは日英をそれぞれ管理できること（機械翻訳は利用しない）

2-2. 機能要件（加点要件）

- コンテンツ有効期限・自動非公開
 - お知らせ・調達情報・イベント告知など、時限性のあるコンテンツを公開期限付きで管理できる機能を提案して下さい。現行は手動での非公開対応のみ
- 操作ログ・監査証跡

- 「誰がいつ何を変更・公開・削除したか」をユーザ別に記録・閲覧できる機能を提案してください。現行の WP リビジョンは版管理にとどまり、操作者の行動履歴として一覧化されていない
- **フォームの刷新 (UX・セキュリティ)**
 - 現行は 21 フォームを WP プラグインで管理。日英の命名規則が不統一で、公益通報・個人情報問い合わせなど機密性の高いデータが WP DB に保存されているので、利便性・運用面・セキュリティを考慮した改善を提案してください
- **積極的な AI 活用**
 - 本プロジェクトでは必要十分なセキュリティ対策を前提に AI の活用を推奨します。コスト削減・スケジュール短縮・品質向上などのメリットを享受できる AI の活用方法を具体的に示してください
- **英語コミュニケーション**
 - 本プロジェクトには所内の米国人職員が参画します。また、必要に応じて資料等の英語化が必要になる場合が想定されますので日英バイリンガルな対応が可能なスタッフをアサインできる場合には加点として評価します
- **社内開発体制**
 - 本プロジェクトでは研究所の機密情報を取り扱う可能性があることから、情報セキュリティにおける認定基盤として、一般財団法人日本情報経済社会推進協会の ISMS 適合性評価制度の認定、またはプライバシーマークの認定を受けている場合には加点として評価します

2-3. サイト構造について

現状サイト構成（別添）、本プロジェクトの目的・ゴールを踏まえて適切なサイト構造を提案してください。

2-4. UI/UX 方針

本プロジェクトの目的・ゴールを踏まえて UI/UX の方針を提案してください。

「1-3 ターゲット」の優先度を考慮してターゲットごとに最適化された UI/UX を提案してください。

2-5. デザイン案

リニューアルサイトについて以下のデザイン案をプレゼンテーション時に必ず提示してください。

- 1) トップページ（デスクトップ・モバイル版）
- 2) 研究者が公開研究データ (<https://www.rerf.or.jp/library/data/>) を活用して情報探索をするための画面フローおよびその画面

その他ページの提示については任意としますが、企画提案書の実現性を十分説明できる内容としてください。あわせて、デザイン趣意、設計意図、担当デザイナーのポートフォリオを提示してください。

2-6. アクセシビリティ要件

目的やターゲットを踏まえてアクセシビリティの対応方針および具体的な施策を提案してください。ただし、高齢者や障がい者などを対象とした個別最適化について次フェーズ以降で検討します。

2-7. インフラ設計方針

インフラについては以下に記載する要件を前提としてください。CMS やサイト構造、デザイン、搭載機能に応じて上位互換であることを妨げません。

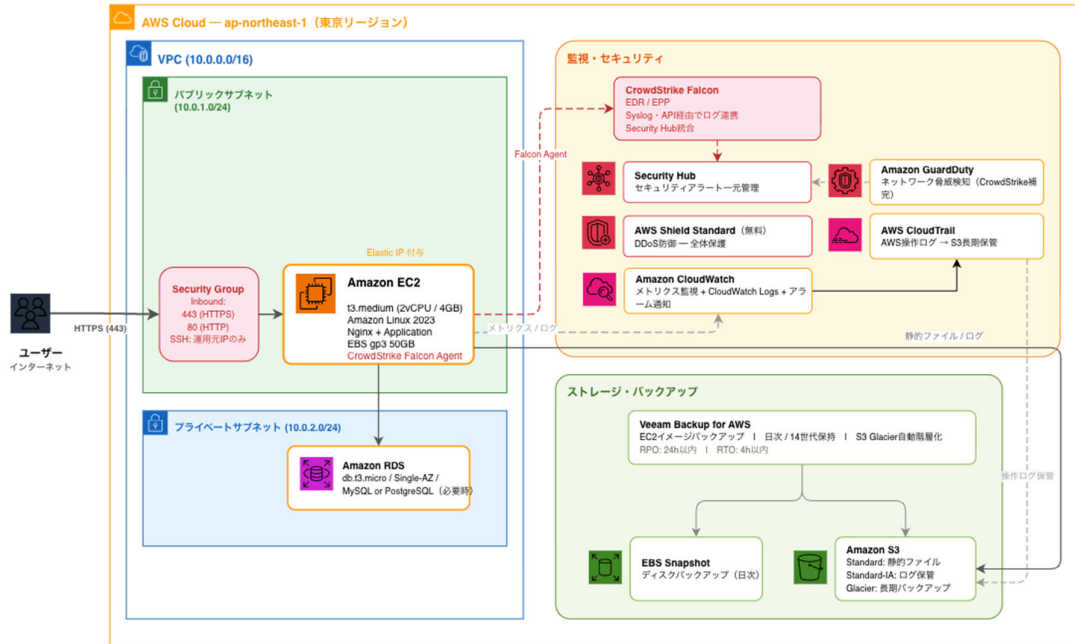
2-7-1. 概要

項目	内容
想定トラフィック	35,000 PV/月
クラウド	AWS (ap-northeast-1 / 東京リージョン)
CDN	現時点では不要、将来的に CloudFront 導入を検討
ELB / ALB	不要
バックアップ	Veeam Backup for AWS 連携
セキュリティ	CrowdStrike Falcon で EDR/EPP をカバー
ログ保持	CrowdStrike 連携 + CloudWatch + CloudTrail
稼働率	クリティカルな問題ではない (Single-AZ で許容)

2-7-2. インフラ構成図

下図に全体構成を示します。実線は通信フロー、破線は連携・バックアップの関係を示しています。

AWS インフラ構成図 | ap-northeast-1 (東京)



2-7-3. コンポーネント詳細

• Amazon EC2

項目	推奨構成
インスタンスタイプ	t3.medium (2 vCPU / 4GB RAM) — バースト対応
AMI	Amazon Linux 2023 (AL2023)
EBS	gp3 50GB (3,000 IOPS / 125 MB/s)
Web サーバー	Nginx — アプリ種別に応じて選定すること
セキュリティ Agent	CrowdStrike Falcon
リモート接続	SSM Session Manager (SSH 不要)
Elastic IP	固定 IP を付与 (再起動時の IP 変更防止)

• ネットワーク (VPC)

- パブリックサブネット: Internet Gateway をアタッチ、Security Group で HTTP/HTTPS のみ許可
- プライベートサブネット: EC2・RDS を配置、インターネットからの直接アクセスを遮断
- Security Group: Inbound は 443 (HTTPS)、80 (HTTP) のみ。SSH は運用元 IP のみに制限 (SSM 推奨)
- アウトバウンド: OS 更新、CrowdStrike 通信、Veeam 通信に必要なポートを許可

• Amazon RDS（必要時）

項目	推奨構成
インスタンス	db.t3.micro (1 vCPU / 1GB RAM)
エンジン	MySQL 8.0 or PostgreSQL 15
可用性	Single-AZ（コスト優先とすること）
ストレージ	gp3 20GB
バックアップ	自動バックアップ 7日間保持

• Amazon S3

用途	ストレージクラス	備考
静的ファイル	S3 Standard	画像、CSS、JS 等
ログ保管	S3 Standard-IA	90 日以降のログ
バックアップ保管	S3 Glacier Instant Retrieval	Veeam Capacity Tier 連携

2-7-4. セキュリティ設計

• CrowdStrike Falcon カバー範囲と補完

カテゴリ	CrowdStrike	AWS 側の補完対策
エンドポイント保護 (EPP)	○ 対応	—
EDR (検知・対応)	○ 対応	Security Hub と統合
脆弱性管理	○ Spotlight	Inspector (併用可)
ネットワーク層	— 対象外	Security Group + GuardDuty
ログ集約 / SIEM	△ LogScale	CloudWatch Logs + S3
DDoS 防御	— 対象外	AWS Shield Standard (無料)
データ暗号化	— 対象外	EBS/S3/RDS 暗号化 (デフォルト有効)
SSL/TLS	— 対象外	ACM (無料証明書)

2-7-5. ログ管理・CSF 連携

・ログ連携構成

ログ種別	収集方法	転送先
OS ログ (syslog)	CrowdStrike Agent 自動収集	Falcon Console
アプリケーションログ	CloudWatch Agent	CloudWatch Logs
アクセスログ (Nginx)	CloudWatch Agent → S3 エクスポート	CloudWatch + S3 + CrowdStrike
セキュリティイベント	CrowdStrike Agent	Falcon Console (リアルタイム)
AWS 操作ログ	CloudTrail (自動)	S3 (長期保管)

・推奨ログ保持期間

ログ種別	保持期間	保管先
セキュリティログ	1 年	CrowdStrike + S3 Standard-IA
アクセスログ	90 日 (CW) + 1 年 (S3)	CloudWatch Logs + S3
CloudTrail	90 日 (デフォルト) + 1 年 (S3)	S3
バックアップログ	30 日	Veeam Console

2-7-6. バックアップ設計 (Veeam)

・バックアップ対象と方式

対象	方式	頻度	保持
EC2 全体	Veeam イメージバックアップ	日次	14 世代
RDS	RDS 自動バックアップ + Veeam	日次	7 日 (RDS) + 30 世代 (Veeam)
EBS	EBS Snapshot + Veeam	日次	14 世代
設定ファイル	ファイルレベルバックアップ	変更時	7 世代
S3	バージョンング	自動	90 日

Veeam Backup for AWS 構成

- AWS Marketplace から Veeam Backup for AWS をデプロイ
- EC2 スナップショットベースのバックアップを自動実行
- Capacity Tier で S3 Glacier への自動階層化を活用
- リストアテスト: 月次で実施し、RPO/RTO を確認
- Veeam Backup for AWS ライセンスの調達を含む

RPO（目標復旧時点）：24 時間以内

RT0（目標復旧時間）：4 時間以内（EC2 再構築）

3) 次フェーズ以降の要件に関して

3-1. 本項について

以下については次フェーズ以降で実施検討している事項になります。今回の提案に含める必要はありませんが、今回のプロジェクトにおける設計や技術スタックの選定の参考としてください。

3-2. 論文・資料のデータベース化

現行サイトでは掲載のみとなっている論文・データライブラリ（<https://www.rerf.or.jp/library/>）について検索・閲覧・管理の観点でより高い価値提供をできるシステムの実装、CMS とは完全に別システムとして実装する必要があります。

以下を前提条件とします。

- 登録するデータは PDF のみ、PDF はテキストを認識できるものとし、OCR は考慮不要とします
- 検索等に必要なメタデータ（著者、出版年など）はデータベース要件をもとに提案ください。データ準備は RERF 側にて実施想定とします
- 本データベースについては今後外部連携や別システムでの利用が想定されるため、API 連携など拡張性のある設計としてください

3-3. WEB サイト・CMS に関する事項

- **SEO/AIO 施策**
 - SEO・AI 検索（AIO）での露出を高める技術的な実装
- **回遊率・閲覧時間を高める仕組み**
 - 関連コンテンツへの導線などユーザの回遊性や滞在時間の獲得につながる仕組み
- **ターゲット別コンテンツ設計・パーソナライゼーション**
 - RERF の多様なターゲットに応じたコンテンツや導線を出し分ける UX 設計・実装提案
- **バリアフリーUI 設計**
 - 高齢者や障がい者など、規格準拠のアクセシビリティではなく「実際に便利に使えるか」を重視した設計
- **多段階承認ワークフロー**

- 現行は編集者が承認なしで直接公開できる状態。部門・言語単位で承認者を設定し、公開前に必ず上長確認が入る仕組み

4) プロジェクトに関して

4-1. 体制図・メンバー実績

本プロジェクトを円滑に遂行するための最適なチーム構成と、その裏付けとなる実績を提示ください。

- プロジェクト責任者、プロジェクトマネージャー、設計・開発、デザイン、エンジニアなどの役割分担を明記した体制図を提示ください
- 担当者が特定できないものは TBD としていただいて構いませんが、プロジェクト責任者、プロジェクトマネージャーは受注時に担当となる人員の特定及びプレゼンテーションへの参加を必須とします
- 主要メンバーの略歴を提示ください。特に PM および主担当者の過去 3 年以内の類似案件（Web リニューアル、CMS 導入、認証連携システム等）の実績を明記してください
- 再委託先の可能性がある場合は、委託事由、委託先、役割、管理責任の所在を記載してください
- 各メンバーの使用可能言語を明記してください。※バイリンガルであることが必須ではない

4-2. 進捗管理手法

- プロジェクトの進捗管理のための具体的な手法を提示してください
- 使用する管理ツール（Backlog、Jira 等）や、定例会の開催頻度、進捗報告書（週報・月報）サンプルなど
- 発生した課題の起票から解消までのフロー、および未決事項のトラッキング手法
- プロジェクトコミュニケーションおよびデータ共有は弊所テナント内の Microsoft Teams および SharePoint によって行う想定ですが、何らかの事由で利用が難しい場合は代替案を提示してください

4-3. リスク管理手法

プロジェクトリスクの特定、対策のプロセスを提示してください。

- 想定リスクの抽出：Web サイトリニューアル特有のリスク（データ移行の不備、認証システムの不具合、現行仕様との乖離など）に対する見解
- エスカレーションフロー：納期遅延や致命的な不具合が発生した際の、迅速な意思決定ルートと対応方針
- 品質管理（QA）：各フェーズ（設計、開発、テスト、移行）における品質担保の基準と検査体制

4-4. 変更管理手法

プロジェクト進行中のスコープ変更や要件追加に対し、予算・納期への影響を最小限にするための管理手法を提示してください。

- 要件の追加・変更が発生した際の、インパクト分析（工数・影響範囲）から承認に至るまでの変更要求プロセス
- 変更に伴う設計書や仕様書の更新フロー、および構成管理の手法

4-5. 概算スケジュール

プロジェクトキックオフから納品までの概算工期を提示してください。あわせてマイルストーン、クリティカルパスが分かるように記載してくださいまた RERF が担当となる部分についても明示をお願いします。令和 9 年 7 月 30 日の納品は必須要件として工期・予算を計画ください。

4-6. サイト保守体制について

リニューアル後のウェブサイトの保守体制を提示してください。原則として平日 8:30 から 17:00 までの研究所からの問合せ対応は必須とします。なお、保守費用に関しては、ローンチ後の初年度保守費用を見込んでください。すなわち、1.4 項に記載された納入期日の翌日もしくは、リニューアルサイトの公開日から起算して 1 年間の保守費用とします。

- 構築費用と保守費用は別々の見積書として提示して下さい。
- 初年度保守費用の見積額と初年度以降の保守費用の見積額が異なる場合には、別の見積書として提示して下さい

5) 提案に関する事項

5-1. ご留意事項

総合評価基準に明記されたプレゼンテーションの日程調整は応札期間満了後に速やかに実施しますのでご協力をお願いします。

5-2. 提案に関するお問い合わせ先

今仕様書に関する問い合わせは、弊所事務局用度課を通じ、書面にて行ってください。なお、質問とそれに対する回答は弊所 WEB サイトを通じて公開される場合があることをご了承ください。